

秋田市は、今後の人口減少、少子高齢化を見据え、都心・中心市街地と6つの地域中心を対象に、生活に必要なサービス機能を集約し、それぞれの地域に住む人が地域内で容易にサービスを受けられるようにする「多核集約型のコンパクトシティの形成」を目指しています。

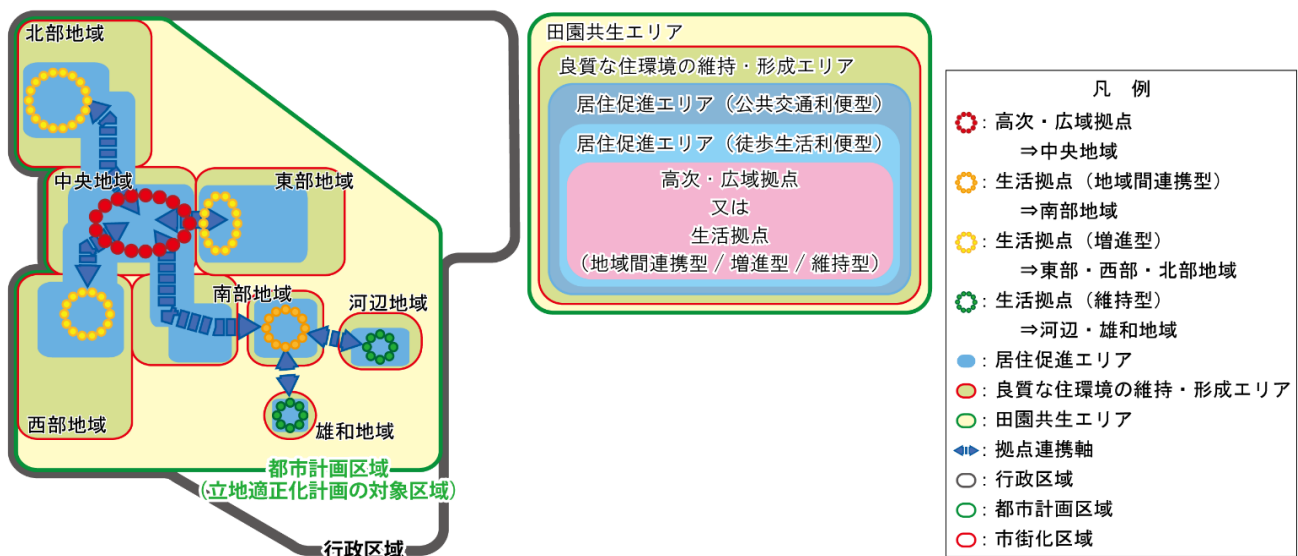
そうした方針のもと、コンパクトシティの実現にあたり、住宅と医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設の立地の適正化に関する基本方針とともに、それらを誘導する区域や施策等を定める「秋田市立地適正化計画」を平成30年3月に策定しました。

### コンパクトシティを目指す背景

人口減少と少子高齢化の進行は、労働力の低下に起因する経済規模の縮小や行財政運営の制約をはじめ、医療や福祉等の社会保障費の増大など、市民生活にも影響を及ぼす懸念があります。そうした中で、都市としての持続性を確保していくためには、人口減少を抑制する取組みとともに、人口規模に見合った都市を構築していく必要があります。

### 秋田市が目指す都市の形

本計画では、秋田市の都市計画の基本的な方針を示す「秋田市総合都市計画」で掲げた“都心・中心市街地と6つの地域中心を核にした都市構造”を基本に、地域の状況をより細かく分析して、将来に向けた望ましい都市の形をまとめました。



### 計画に掲げる立地の適正化の基本目標

#### 目標1：高齢者が健康で、活動・活躍できる「場」の創出による、生きがいのある暮らしの実現

- 元気な高齢者の「社会参画」を促進するため、ソーシャル・コミュニティビジネス等の活躍の場の創出
- 健康に不安を感じてからも、安心して暮らすことのできる生活基盤（都市基盤・公共交通・生活サービス）の確保

#### 目標2：子育て世代が時間効率メリットを得られる「場」の創出による、子どもとの時間を大切にできる暮らしの実現

- 多様な子育て支援サービス（保育所、子ども園、小規模保育施設、事業所内保育施設等）の確保や、「秋田市版ネウボラ」のサービス拡充
- 働く場を含めた多様な機能集積で得られる「時間効率メリット」の発揮による、良好な子育て環境の創出

#### 目標3：集い・にぎわい・交流が生まれる「場」の創出による、県都『あきた』の新たな都市型生活の実現

- 「県・市連携文化施設」を核とする芸術文化ゾーンの形成や「多世代共生型 CCRC マンション」等の中心市街地活性化施策を契機とした更なる民間投資の促進による、県都『あきた』ならではの高質な空間の提供
- 多様な「ヒト（人）・モノ（商品やサービス）・コト（事象）」を誘発し、交流・連携による新たな文化・価値・経済の創出

## ■ 具体的な土地利用方針や暮らしのイメージ

計画では、医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設の集積を誘導する「都市機能誘導区域」と、地域中心とその周辺、公共交通沿線等に居住を誘導して人口密度を維持する「居住誘導区域」を設定し、それぞれで「誘導施策」を展開し、コンパクトなまちを構築していきます。

誘導施策とは、都市機能・居住の各誘導区域に対し、誘導施設および居住機能の緩やかな誘導を促進するために設定します。また、誘導施策の展開により、各地域の活力の維持・増進を図り、民間主体による活発な社会的・経済的・文化的まちづくり活動が行われる場を創出します。

### 【都市機能誘導区域】

高次広域拠点	中央地域： 中心市街地を含む秋田駅 ～山王地区	多様な目的を持った、多様な世代の人々の集い・にぎわい・活動を促進する買い物や娯楽、飲食、散策、文化活動機能のほか居住機能の維持・増進を図ります。	
生活拠点	地域間連携型	南部地域：秋田新都市	買い物や診察など、日常の暮らしの中で必要な機能や居住機能の維持・増進を図りつつ、他の生活拠点（維持型）と連携し、不足機能を補完します。
	増進型	東部地域：秋田駅東地区 西部地域：新屋地区 北部地域：土崎地区	買い物や診察など、日常の暮らしの中で必要な機能や居住機能の維持・増進を図ります。
	維持型	河辺地域：和田地区 雄和地域：妙法地区	主に現状の都市機能の維持を基本とするとともに、居住機能の維持・増進を図ります。なお、不足機能は生活拠点（地域連携型）との連携により補完します。



△高次・広域拠点のイメージ

△生活拠点のイメージ

### 【居住誘導区域】

居住促進エリア	徒歩生活 利便エリア	車だけに頼ることなく、徒歩により、高次・広域拠点および6つの生活拠点にある多様なサービスを容易に受けることができる環境の形成を図ります。
	公共交通 利便エリア	車だけに頼ることなく、公共交通の利用により、高次・広域拠点および6つの拠点にある多様なサービスを容易に受けることができる環境の形成を図ります。



△徒歩生活利便エリアのイメージ

△公共交通利便エリアのイメージ

# 都市機能・居住の各誘導区域図

この図面は都市機能・居住の各誘導区域の概略を示したものであり、詳細については秋田市都市計画課でお調べください。

## 拠点別誘導施設一覧

「高次・広域拠点」「生活拠点」「生活拠点（地域間連携型・増進型・維持型）」それぞれの性質に合わせ、拠点ごとに誘導施設を設定しました。

誘導施設	高次・広域拠点 (中央地域)		生活拠点	
	地域間連携型 (南部地域)	増進型 (東部・西部・北部・雄和地域)	増進型 (河辺・雄和地域)	維持型 (河辺・雄和地域)
介護・福祉機能	○	○	○	○
子育て機能	○	○	○	○
商業機能	○	○	○	○
	○	○	○	○
医療機能	○	○	○	○
	○	○	○	○
教育・文化機能	○	○	○	○
	○	○	○	○
市民交流施設	○	○	○	○

※ ○(誘導施設)：誘導施設として位置付け、緩やかに誘導を促進する施設



一 凡例

- 都市機能誘導区域 (Red outline)
- 居住誘導区域 (Blue outline)
- 市街化区域 (Green outline)
- 都市計画区域 (Blue outline)
- 高次・広域拠点形成区域 (Pink)
- 生活拠点形成区域 (Light Pink)
- 徒歩生活の利便区域 (Light Blue)
- 公共交通の利便区域 (Light Green)
- 秋田市7地域 (Dashed line)
- 行政区域 (Black outline)